



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年2月13日

上場取引所 大

上場会社名 山陽電気鉄道株式会社

コード番号 9052 URL <http://www.sanyo-railway.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上門 一裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務本部マネージャー (氏名) 荒木 素直 TEL 078-612-2032

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	34,546	1.1	3,516	4.3	3,357	7.4	1,967	11.3
24年3月期第3四半期	34,176	△7.4	3,372	△0.9	3,127	1.1	1,768	11.3

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 2,250百万円 (45.9%) 24年3月期第3四半期 1,542百万円 (0.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	17.70	ー
24年3月期第3四半期	15.91	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	94,280	29,033	30.3
24年3月期	94,832	27,228	28.3

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 28,586百万円 24年3月期 26,830百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	ー	2.00	ー	2.00	4.00
25年3月期	ー	2.00	ー		
25年3月期（予想）				2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,997	3.3	3,274	△10.6	2,980	△8.3	1,704	3.7	15.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期3Q	111,652,992株	24年3月期	111,652,992株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	458,202株	24年3月期	454,309株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期3Q	111,196,740株	24年3月期3Q	111,202,896株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P. 3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要により回復の動きが見られたものの、海外経済の減速による景気の下振れリスクなどが根強く存在し、先行き不透明なままに推移いたしました。

このような情勢のなかで、当社グループでは鉄道およびバス事業において積極的に旅客誘致をはかったほか、山陽百貨店では地域において強みを発揮できる食料品等の分野を中心にテナントを導入するなど、さらなる収益拡大に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、営業収益が34,546百万円と前同四半期連結累計期間に比べ370百万円(1.1%)の増収となり、営業利益は3,516百万円と前同四半期連結累計期間に比べ143百万円(4.3%)の増益、経常利益は3,357百万円と前同四半期連結累計期間に比べ230百万円(7.4%)の増益となり、四半期純利益は1,967百万円と前同四半期連結累計期間に比べて199百万円(11.3%)の増益となりました。

①運輸業

運輸業におきましては、鉄道事業におきまして、大河ドラマ「平清盛」の放映にあわせて、ラッピング電車「清盛号」の運行や「KOBÉ de 清盛」1dayバスの発売などを実施いたしました。また、平成24年の春には須磨エリアの桜を「敦盛桜」と命名し、近隣の観光施設等と連携して旅客誘致に努めたほか、平成24年11月には地元の方に紹介していただいた「食」や「観光」など、沿線の魅力を詰め込んだお出かけガイド「山陽沿線まちグルメ」を発行し、これを用いた旅客誘致キャンペーンを展開いたしました。施設面では、列車運行管理システム更新工事や踏切支障報知装置設置工事などの安全対策工事のほか、播磨町駅のバリアフリー化工事に継続して取り組みました。

バス事業におきましては、平成24年3月に明石市から明石市東部地区の一部路線を譲受け、事業拡大をはかったほか、垂水地区においても平成24年4月に路線を新設するなど、地域のニーズを捉えた施策に取り組みました。このほか、少人数でのご利用に適した中型貸切バスの更新や、地域の観光協会等と共催した「たかさご観詰バスツアー」などを通じて、さらなる収益の拡大をはかりました。

運輸業全体では、平成23年の東日本大震災の影響による出控えの反動や、山陽バスにおいて明石市営バスの一部路線を譲受けたことなどにより、外部顧客に対する営業収益は13,845百万円と前同四半期連結累計期間に比べ321百万円(2.4%)の増収となりましたが、経費の増加により、営業利益は1,881百万円と前同四半期連結累計期間に比べ39百万円(△2.0%)の減益となりました。

②流通業

流通業におきましては、山陽百貨店において、地域の方に選ばれる百貨店をめざし、食料品部門において、食品雑貨を中心としたセルフ方式の売場「Sマート」をリニューアルするとともに、洋菓子コーナーの一層の充実をはかるため、新たに「アンリ・シャルパンティエ」をオープンいたしました。また、生活雑貨フロアにおいては、陶芸品を扱う「ゆう工房」をはじめとする新ブランドを導入し、他店との差別化をはかるなかで、幅広い年齢層のお客さまにご来店いただける売場づくりに取り組みました。このほか、催事面においては「日本列島絶品うまいもの大会」などの人気催事等の開催を通じて、さらなる集客力の強化をはかりました。

流通業全体では、山陽百貨店においてJR姫路駅周辺整備工事による影響等により減収となったことなどから、外部顧客に対する営業収益は15,389百万円と前同四半期連結累計期間に比べ155百万円(△1.0%)の減収となりましたが、経費の削減により、営業利益は214百万円と前同四半期連結累計期間に比べ4百万円(2.2%)の増益となりました。

③不動産業

不動産業のうち分譲事業におきましては、西宮市で「エスコート西宮グランハーツ」、神戸市須磨区では「エルグレース須磨妙法寺川公園」の建設・販売を進めました。また、大阪府吹田市の「ザ・千里ガーデンズ」についても、引き続き販売に注力いたしました。賃貸事業におきましては、大阪市西天満地区で賃貸マンションの建設を推進したほか、神戸市垂水区の保有土地に介護老人保健施設を誘致するなど、長期的な収益基盤の拡充をはかりました。

不動産業全体では、分譲・賃貸ともに規模の拡大があったことなどから、外部顧客に対する営業収益は2,372百万円と前同四半期連結累計期間に比べ211百万円(9.8%)の増収となり、営業利益は1,326百万円と前同四半期連結累計期間に比べ210百万円(18.8%)の増益となりました。

④レジャー・サービス業

レジャー・サービス業におきましては、須磨浦山上遊園で行楽シーズンを中心に夜間営業を行い、神戸の美しい夜景をお楽しみいただいたほか、平成24年7月には、新たな集客スポットとして平敦盛が愛用した青葉の笛をモチーフとした「日時計と青葉の笛広場」をオープンいたしました。また、舞子ホテルでは、定期的に開催するブラйдアルフェアを通じて邸宅ウェディングの魅力を発信し、婚礼件数のさらなる増加に努めました。

レジャー・サービス業全体では、外部顧客に対する営業収益は1,922百万円と前同四半期連結累計期間に比べ66百万円(3.6%)の増収となりましたが、経費の増加により、営業損失は92百万円と前同四半期連結累計期間に比べ44百万円(95.2%)増加しました。

⑤その他の事業

一般労働者派遣事業、設備の整備業などその他の事業におきましては、外部顧客に対する営業収益は1,016百万円と前同四半期連結累計期間に比べて75百万円(△6.9%)の減収となりましたが、経費の削減により、営業利益は132百万円と前同四半期連結累計期間に比べ11百万円(9.9%)の増益となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて552百万円減少し、94,280百万円となりました。また、純資産は前連結会計年度末に比べて1,804百万円増加し、29,033百万円となり、自己資本比率は30.3%となりました。

増減の主な内訳は、資産の部では現金及び預金が4,381百万円、受取手形及び売掛金が576百万円、それぞれ減少し、また、分譲土地建物が407百万円、建物及び構築物が479百万円、建設仮勘定が2,027百万円、有形固定資産のその他が547百万円、それぞれ増加しております。負債の部では長期借入金3,373百万円減少し、また、長期前受工事負担金が1,881百万円増加しております。純資産の部では、利益剰余金が1,523百万円増加しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の国内経済は東日本大震災の復興需要により回復の動きが見られたものの、海外経済の減速による景気の下振れリスクなどが根強く存在し、先行き不透明なままに推移するものと思われます。このような状況の下、平成24年11月13日に公表しました業績予想を変更いたしております。

通期の業績予想につきましては、第3四半期までの業績及び今後の見通しを勘案し、営業収益48,997百万円(前期比3.3%増)、営業利益3,274百万円(前期比10.6%減)、経常利益2,980百万円(前期比8.3%減)、当期純利益1,704百万円(前期比3.7%増)を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,425	5,043
受取手形及び売掛金	2,462	1,885
有価証券	699	699
商品及び製品	1,004	1,226
分譲土地建物	4,784	5,192
繰延税金資産	295	273
その他	587	694
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	19,256	15,013
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,523	34,002
機械装置及び運搬具（純額）	4,016	4,153
土地	18,955	19,301
建設仮勘定	8,621	10,649
その他（純額）	682	1,230
有形固定資産合計	65,799	69,338
無形固定資産	355	383
投資その他の資産		
投資有価証券	3,105	3,411
長期貸付金	55	63
長期前払費用	4,922	4,760
繰延税金資産	268	257
その他	1,086	1,067
貸倒引当金	△16	△16
投資その他の資産合計	9,421	9,544
固定資産合計	75,576	79,266
資産合計	94,832	94,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,989	6,616
短期借入金	7,113	6,749
未払法人税等	1,001	712
賞与引当金	146	251
役員賞与引当金	30	—
商品券等使用引当金	337	333
その他	6,451	6,777
流動負債合計	22,071	21,440
固定負債		
社債	6,000	6,000
長期借入金	23,145	19,772
繰延税金負債	361	324
退職給付引当金	1,311	1,419
長期前受工事負担金	7,705	9,586
受入敷金保証金	5,675	5,417
その他	1,333	1,285
固定負債合計	45,532	43,806
負債合計	67,603	65,246
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,090	10,090
資本剰余金	6,850	6,850
利益剰余金	9,803	11,326
自己株式	△128	△129
株主資本合計	26,616	28,138
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	213	448
その他の包括利益累計額合計	213	448
少数株主持分	398	446
純資産合計	27,228	29,033
負債純資産合計	94,832	94,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業収益	34,176	34,546
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	26,808	27,104
販売費及び一般管理費	3,994	3,924
営業費合計	30,803	31,029
営業利益	3,372	3,516
営業外収益		
受取利息	9	7
受取配当金	76	67
持分法による投資利益	—	0
バス補助金	71	91
雑収入	228	242
営業外収益合計	385	408
営業外費用		
支払利息	482	404
持分法による投資損失	0	—
雑支出	149	163
営業外費用合計	631	568
経常利益	3,127	3,357
特別利益		
固定資産受贈益	4	—
工事負担金等受入額	9	150
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	13	150
特別損失		
固定資産除却損	38	10
投資有価証券評価損	1	—
工事負担金等圧縮額	9	150
減損損失	—	0
特別損失合計	50	161
税金等調整前四半期純利益	3,090	3,346
法人税、住民税及び事業税	1,416	1,397
法人税等調整額	△137	△67
法人税等合計	1,278	1,329
少数株主損益調整前四半期純利益	1,812	2,017
少数株主利益	43	49
四半期純利益	1,768	1,967

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,812	2,017
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△269	233
その他の包括利益合計	△269	233
四半期包括利益	1,542	2,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,501	2,202
少数株主に係る四半期包括利益	40	48

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	その他の 事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	13,523	15,544	2,160	1,855	1,092	34,176	—	34,176
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	324	65	618	48	1,318	2,374	△2,374	—
計	13,847	15,610	2,778	1,903	2,410	36,551	△2,374	34,176
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,921	209	1,116	△47	120	3,320	52	3,372

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去52百万円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	その他の 事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	13,845	15,389	2,372	1,922	1,016	34,546	—	34,546
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	325	44	663	56	1,427	2,516	△2,516	—
計	14,170	15,433	3,036	1,978	2,443	37,063	△2,516	34,546
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,881	214	1,326	△92	132	3,462	54	3,516

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去54百万円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

(退職給付信託の一部解約について)

当社は、年金資産が退職給付債務に対して積立超過の状況にあり、その状況が継続することが見込まれることから、平成25年2月13日開催の取締役会において、退職給付信託の一部返還を行うこととしました。

なお、返還額については908百万円を見込んでおります。また、平成25年3月期の連結損益計算書において、未認識数理計算上の差異の一括償却額として1,255百万円の運輸業等営業費及び売上原価の計上を見込んでおります。